**格安スマホの「優しさ」しみた……“善意のパケット”、新たな被災地支援に (1/4)**

震度7の揺れが2度も起きた熊本地震の被災地で、情報収集や安否確認に欠かせない存在になったのがここ数年で急速に普及したスマートフォン（スマホ）だった。ただ、動画視聴やインターネットの長時間利用によって、データを送受信する「パケット」料金がかさみ、使用量制限を超えてしまう弱点もあった。それを補うかのように、格安スマホ利用者同士でパケットを“寄付”するという新たな被災地支援が「前震」翌日から動き出し、わずか3日間で1千件以上の善意のパケットが贈られていた。（石川有紀）

**「ラジオ聞けた」**

　熊本地震の前震が起きた翌日の4月15日。この日から、関西電力系通信会社のケイ・オプティコムが運営する格安スマホ「mineo（マイネオ）」の利用者向けコミュニティーサイト「マイネ王」に、ふだんは月末にパケットが足りなくなった人に貯めておくパケットが全国から寄せられた。

　「余震が多く、安否確認や情報交換のメールやLINEをかなり利用しています」「避難先ではパケット制限が気になる。移動中でもラジオを聞けて大変ありがたい」…。寄付されたパケットを利用した被災者から感謝の声がサイトに続々と上がった。

熊本地震では、避難所生活や車中生活を余儀なくされた被災者は最大20万人に上った。家屋が倒壊した人だけでなく、余震が不安で避難した人も多かった。

　避難所では、通信会社が提供した充電ステーションにつないだスマホを握りしめてニュースに見入る被災者、スマホを枕元に置いて友人と常時メールをやりとりする人たちの姿が見られた。

内閣府の消費動向調査によると、平成27年度のスマホの世帯あたり普及率は前年度比6・8ポイント増の67・4％。新たなインフラとしてスマホは災害時でも存在感を増す。熊本地震では、急速に普及したスマートフォンと、無料通信アプリ、LINE（ライン）やフェイスブックなどのSNSが電話の代替機能を果たした。

### 発生直後に決断

　マイネオの利用者間でのパケット寄付のシステムは、「フリータンク」として昨年12月にスタート。タンクの中に貯金をするように、利用者が月ごとに使い切れなかったパケットを入れ、パケット利用量が多い月には引き出して使う利用者全体で支え合う仕組みだ。